



JSB 1000

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

中須賀克行が全セッショントップにつけP.P.獲得! 秋吉耕佑は、予選開始早々に1コーナーで転倒!! タイトル奪還に黄色信号!?

(写真) ポールポジションを獲得した中須賀克行

全日本ロードレース選手権が開催されている中で、最もタイトな筑波サーキットが舞台のシリーズ第4戦。事前テストからディフェンディングチャンピオンの中須賀克行とポイントリーダーの秋吉耕佑がセッションを引っ張っていたが、レースウィークに入ると中須賀が身体の回復具合と相まって調子を上げてくる。一方、秋吉は、自分自身のスタイルに合ったマシン作りに集中。着実にセットアップを進めていたのだが…。

公式予選が行われた土曜日は、朝方は雲が覆っていたものの時間が経つにつれ晴れ間が広がり蒸し暑くなっていく。JSB1000クラスは、筑波では初めてノックアウト方式で行われ第1セッションが始まるころには、路面温度が50度を超えるほどの暑さとなっていた。セッション開始早々、アクシデントが発生する。何と秋吉が1コーナーでクラッシュ! 頭を強く打ち左大腿骨を骨折、肺挫傷を負ってしまい、すぐにチームからリタイア届けが提出された。このため、今回は秋吉がノーポイントになることが確定。現在、中須賀が11ポイント差で追っており逆転は必至の状況となった。

トップ10チャレンジでは、秋吉のいなくなったコース上で激しいタイムアタックが繰り返された。その中で中須賀が55秒772をマークしポールポジションを獲得。

「マシンセットはいい方向に仕上がっています

し、筑波は抜きどころの少ないコースなのでポールポジションを獲得したことは重要ですね。スタートをしっかり決めてレースを引っ張っていく展開にしたいですね。序盤3戦よりは、体調もいいですし攻めていきますよ」と仕上がりは上々のようだ。ただ、まだ左肩は完治しておらず、テーピングやレーシングスーツにタオルを挟んで固定している状態で走っている。だが、今回の中須賀に太刀打ちするのは容易ではなさそうだ。

2番手にヨシムラの津田拓也が55秒808と僅差で続く健闘を見せた。「事前テストから試行錯誤を繰り返して予選で集大成を出した結果です。アベレージも考えながらセットアップを進めてきたのでレースに向けていい手応えがあります。決勝では、中須賀選手にキッチリついていって経験値を上げたいですね。そう言い続けて4戦目ですが、今回こそトップが見えるところでレースがしたいです。そうすれば、今の自分に足りないものが見えてくるはずですから」と津田。JSB1000クラスでの経験値は、まだ少ないが、着実な速さを見せている。

続く3番手にもJSB1000ルーキーの渡辺一樹がつけた。「トップ10チャレンジで転倒してしまいましたが、ネガティブなものではなく攻めて行った結果です。事前テストから今のパッケージでセットを詰めてきて、雨がパラついている中で57秒フラットが出ていたので、完全なドライならば56秒真ん中

は出ると思っていたら、金曜にそのタイムが出たので、自信になりました。今回は上位で最後までレースをしたいですね」と渡辺。

これに市販キット車を駆る山口辰也が4番手に食い込む健闘を見せたが、予選7番手の高橋巧まで、僅差で続いている。「まだ詰める部分があるので、決勝の気温が下がればボクたちに有利になると思います。昨年は、表彰台に上がっていますし、チャンスがあれば狙っていききたいですね」と山口。一方、5番手につけた加賀山は、「ダンロップさんが事前テストからの短時間でアジャストしてくれたので、よくなってきています。ただ勝つためには、今ひとつ足りない状態ですが、レースは、何があるか分かりませんからね。ベストを尽くすだけです」とコメント。

レースは、中須賀が引っ張り、このペースに何人ついていけるかがカギとなるだろう。津田、渡辺のJSBルーキーが、どんな走りを見せるか注目したい。山口、加賀山、柳川明、高橋も表彰台に立つ可能性は、高いと言えるだろう。いずれにせよ今回のレースのイニシアチブは、中須賀が握っていると言っても過言ではない。中須賀が、どんなタイムで周回するかが、レース展開を左右する要因となるのは間違いない。筑波ラウンドを制するのは、果たして!?

(佐藤寿宏)



予選2番手の津田拓也



#50渡辺一樹が3番手、#87柳川明は6番手からのスタートとなる



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

ポールポジション： #1 中須賀 克行 0'56.160

『これまでの3戦を考えれば、今週は安定したウイークだと思います。肩も、いい状態になってきていますし前回から勝負できるかな、という感じですが肩は70%の状態から、なかなか回復してきていません。それでも、バイクはだいぶ振り回せるようになってきていますし、自分が100%ではなくても、トータルで100%を出せれば勝てると思います。そこを目指してバイクを仕上げてきましたし、毎セッション、トップを取れているので、非常に流れはいいですね。アペレージも悪くないので、手応えを感じています。ボクの筑波のベストタイムが55秒5だったので、更新できなかったのが悔しいですね。ここは1周が短いので、とにかく1列目が確保できればいい、と思っていたので、ポールが取れて、いい形でスタートを切ることができますね。決勝は恐らく10周目辺りから周回遅れが出てくると思うので、どうさばくかがキーポイントになる。まず最初に(周回遅れを)抜ける位置にすることが大事。ボクは抜くのも得意な方なので、ちょっとずつ差を開いていけたらなと思っています』

ST 600
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

渡辺一馬が逆転でP.P.を獲得! 「レースでは自分の走りをしたい」



ポールポジション：#6 渡辺 一馬 0'58.002

『コースレコード更新を目標にしていたので、タイムにはすごく不満が残りましたが、ポールポジションを取れたことには意義があると思うので、そこは素直に喜ばたいと思います。気温が上がって風も出てきていて、コンディションは決してよくなかったですが、もっとタイムを詰めるポイントがあったと思うので、コンディションを言い訳にはしたくないですね。事前テストの時から常にトップに近いタイムは出せているから、流れは悪くないですが自分の想定していたタイムには届いていません。一発のタイムは出せませんでした、アペレージタイムは順調に上がってきているので、レースに向けて手応えはありますし、いいレースができると思います。誰かが抜け出すレースにはなりにくいと思うので、ボクがレースを引っ張って自分のペースに持ち込みたいです』

J-GP3と同様にA・B組に分かれて行なわれたST600の公式予選。A組1回目のセッションでは、中富伸一が58秒324でトップ、2番手には篠崎佐助、近藤湧也と続いた。B組では伊藤勇樹、渡辺一馬らが序盤モニターの上位に付けるが、終盤に岩崎哲朗が58秒083でトップに立ってセッションは終了した。

2回目のセッションはなかなかタイムが上げられず、A組では中富が58秒330でトップ、篠崎、稲垣誠と続いた。B組も渡辺がトップに立つものの、タイムは58秒8。セッションも終盤に入ると、岩崎、井筒仁康、伊藤勇樹らがトップを入れ替えていく。こうして残り時間も少なくなったタイミングで渡辺がアタック、最終的に58秒002をマークして全体のトップに躍り出た。岩崎も最後にタイムアップするが、結局渡辺が逆転でポールを獲得した。

J-GP2
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

長島哲太が2戦連続P.P.獲得! 「理想は逃げるレースがしたいが…」



今大会で唯一50分間の1セッションで争われたJ-GP2の公式予選。雲が多いながらも日差しのある暑い時間となった。初日の練習走行で非公式ながらレコードタイムを破った長島哲太がセッション序盤に57秒977でトップに立つ。しかし、筑波をホームコースとする現レコードホルダーの中本郡が57秒868でトップを逆転。野左根航太、太木崇行、そして58秒155のデチャ・クライサーと続く。

セッションの終盤、高橋英倫が57秒813でトップに立つが、井筒仁康が57秒台を連発、57秒603でトップを奪う。その直後に中本が57秒528でトップを奪回、デチャ、生形秀之、浦本修充らも57秒に入れてくる。そして残り5分で長島がレコードタイムまで0.004秒に迫る57秒380を叩き出し、結局このタイムで激しい予選を制してポールポジションを獲得した。



ポールポジション：#45 長島 哲太 0'57.380

『5月のオートポリスのテストのフィーリングがすごく良かったので、その流れを筑波の事前テストに持ち込みたかったのですが、雨が降ったり、コンディションが変わっていたりしたのでセットを詰めきれないままレースウイークに入ってしまった。そのため予選の時間をセットアップに使いました。予選の前半は、アベレージもよく58秒前半で回れていました。決勝を想定したラップもできているので、後はどのタイミングでどうタイヤを使うかがカギになると思います。まだ逃げられるほどのアベレージはないので、ネガな部分を決勝朝のウォームアップ走行で少し修正したいですね。それ次第ですが、タイヤマネジメントを始め、アタマをしっかりと使わないといけなレースになりそうです。勝つ自信はありますし、勝ちたいですね』

J-GP3
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP
QUALIFYING PRACTICE
REPORT & INTERVIEW

山田誓己、8年振りにレコードを更新して P.P.獲得「決勝はタイムより勝利！」



1回目のセッションでは、A組で只一人レコードタイムを破りながら、B組の國峰琢磨に暫定トップを奪われた山田誓己が、A組2回目のセッションではセッション序盤にオールオーバーでのトップとなる59秒035をマーク。2番手の長尾健吾、3番手の山本剛大も1分00秒3と、1秒以上引き離してのトップとなった。

B組では1回目と同じく、國峰が2周目に59秒885をマークすると、3周目、4周目と続けて59秒238までタイムを縮める。しかし、その直後に第1ヘアピン入口で転倒を喫してしまう。すぐに再スタートしたが、その後はタイムを上げられず、グループトップだったものの、自身の1回目のタイム、そして山田が2周目にマークしたタイムは更新することができなかった。結局、山田が2回目のレコードタイムでポールポジションを獲得することになった。



ポールポジション：#3 山田 誓己 0'59.035

『58秒8ぐらいをターゲットにしていたのですが、路面温度が上がってしまい難しかったです。事前テストから調子はよく、レースウイークに入ってから、どんどんセットも詰まってきました。一発のタイムも、ロングランでも、いいタイムがキープできているので決勝に向けて問題はないと思っています。ポールポジションはもちろん狙っていました。なによりコースレコードとして是非でも名前を残したかった。コースレコードを更新するのは当然だと思っていたので、目標タイムに届かなかった悔しい気持ちのほうが大きいですね。決勝は(國峰選手と)抜け出すレースになると思うけれど、予選では組が違い國峰選手の走りを見ていないので、しっかり見極めていきたいです。ここは地元ですし、普段ここで働いているので必ず勝たないといけないと思っています。精一杯、力を尽くします』



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走26台
●決勝スタート/14:40 (30周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	中須賀 克行	ヤマハYSPLレーシングチーム	YZF-R1	55.772
2	12	津田 拓也	ヨシムラスズキレーシングチーム	GSX-R1000	55.808
3	50	渡辺 一樹	TEAM GREEN	ZX-10R	56.304
4	104	山口 辰也	TOHO Racing with MORIWAKI	CBR1000RR	56.425
5	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	56.431
6	87	柳川 明	TEAM GREEN	ZX-10R	56.439
7	634	高橋 巧	MuSASHIハルク・プロ	CBR1000RR	56.456
8	32	今野 由寛	MotoMap SUPPLY	GSX-R1000	57.081
9	33	藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	YZF-R1	57.203
10	4	秋吉 耕佑	F.C.C.TSR Honda	CBR1000RR	出走せず

***** 以上TOP10チャレンジにて決定 *****

***** 以下Q1にて決定 *****

11	29	山中 正之	HondaQCT明和レーシング	CBR1000RR	58.458
12	16	吉田 光弘	Honda熊本レーシング	CBR1000RR	58.487
13	90	木村 芳久	RISING&Fe-BLAST	CBR1000RR	58.806
14	6	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1199PanigaleS	58.917
15	62	塩原 弘志	S.SUPPLY&おやじ組	GSX-R1000	58.943
16	18	中村 知雅	チーム トモサザ	CBR1000RR	58.992
17	19	戸田 隆	F☆Sヒルマル食堂GTRIBE	S1000RR	59.004
18	23	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路	ZX-10R	59.011
19	46	中村 勇志	レンタルバイク横浜・丸富オート	1190RC8R	59.122
20	80	相川 亨	ARC☆Racing	GSX-R1000	59.432
21	70	佐藤 慎一郎	佐藤家レーシング	GSX-R1000	59.934
22	79	岡田 しゅうせい	Deluxe.RT	1098R	1'00.114
23	51	中根 裕	中村エンジン研究所	YZF-R1	1'00.383
24	26	大貫 貴彦	ロケットケロタン+ネオラグーナ	CBR1000RR	1'00.420

***** 以上予選通過 *****

25	73	大橋 靖洋	Honda緑陽会熊本レーシング	CBR1000RR	1'00.427
26	84	喜多田 学	(有)成田総合TS関東+ストロス	1199PanigaleS	1'03.177
27	21	久保山 正明	Honda浜友会浜松エスカルゴ	CBR1000RR	出走せず
28	22	清水 郁巳	ホンダドリーム高崎B'WISE R.T	CBR1000RR	出走せず

予選通過基準タイム (1'01.872 - 3台/110%)

Entry :28 Start :26



●予選:天候/曇のち晴 路面/ドライ 出走33台
●決勝スタート/11:25 (25周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	6	渡辺 一馬	KoharaRacing	CBR600RR	58.002
2	14	岩崎 哲朗	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	58.083
3	2	中富 伸一	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	58.324
4	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	58.380
5	71	小山 知良	CLUB PLUSONE with T.Pro	CBR600RR	58.513
6	76	伊藤 勇樹	PETRONAS-HLYM	YZF-R6	58.534
7	16	國川 浩道	赤い3輪車レーシングチーム	CBR600RR	58.579
8	11	横江 竜司	RT 森のくまさん佐藤塾	YZF-R6	58.613
9	80	谷津 裕亮	DOG FIGHT RACING-YAMAHA	YZF-R6	58.686
10	21	篠崎 佐助	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	58.756
11	23	近藤 湧也	GBSレーシング	YZF-R6	58.832
12	9	福垣 誠	AKENO SPEED・MIC	YZF-R6	58.853
13	50	松川 泰宏	MOTO BUM+SAI	CBR600RR	58.949
14	74	澤村 俊紀	レーシングチーム・ヒロ	CBR600RR	58.953
15	18	中山 真太郎	TEAMしんたろうwithKRT	CBR600RR	59.080
16	634	亀谷 長純	MuSASHIハルク・プロ	CBR600RR	59.115
17	55	瀧美 心	テルル&EM★KoharaRT	CBR600RR	59.160
18	45	高橋 颯	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	59.321
19	54	嶋川 直宏	D:REX	YZF-R6	59.424
20	34	矢田 栄一郎	レーシングチーム OutRun	YZF-R6	59.471
21	48	中本 貴也	SP忠男レーシングチーム	YZF-R6	59.529
22	91	中山 智博	TEAM91&孫悟空	ZX-6R	59.556
23	43	長嶋 修一	石井りんご園モトアルファ	CBR600RR	59.656
24	90	熊谷 健志	ARROWS☆ガレージフジタ	YZF-R6	59.660
25	57	奥野 翼	PITCREW&松戸FLASH	ZX-6R	59.751
26	42	松本 正幸	Teamマキユリ&モスト	ZX-6R	59.761
27	30	豊田 浩史	D:REX	DAYTONA675R	59.773
28	52	中山 友寛	MCRガレージオレンジワークス	CBR600RR	59.804
29	58	小原 岳	MCRガレージオレンジワークス	CBR600RR	1'00.279
30	47	鈴木 力	Sサブライ	GSX-R600	1'00.305

***** 以上予選通過 *****

31	46	小倉 章太郎	HiTMAN RC甲子園ヤマハ	YZF-R6	1'00.639
32	84	野中 浩司	Team Frankie☆Magic	YZF-R6	1'00.703
33	60	遠藤 恵太	研友会栃木PGLレーシング	CBR600RR	1'00.719
37	37	阿久津 晃輝	FRS&日光+HouYou	YZF-R6	出走せず
65	65	CHALERMPOL POLAMAI	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	出走せず

予選通過基準タイム (1'03.802 - 110%)

Entry :35 Start :33



●予選:天候/曇のち晴 路面/ドライ 出走39台
●決勝スタート/10:20 (25周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	3		山田 誓己	TEAM PLUSONE & ENDURANCE	NSF250R	R 59.035
2	55	Y	國峰 啄磨	Projectu7C HARC	TSR3	R 59.088
3	5		山本 剛大	Team NOBBY	M312	59.806
4	14	Y	長尾 健吾	TEAMけんけんwithアポロ	NSF250R	1'00.348
5	8	Y	亀井 雄大	18 GARAGE RACING TEAM	NSF250R	1'00.377
6	78		大久保 光	HotRacing	NSF250R	1'00.379
7	88	Y	水野 涼	CLUB HARC-PRO.	NSF250R	1'00.426
8	9		菊池 寛幸	KoharaRacing	NSF250R	1'00.482
9	83	Y	栗原 佳祐	CLUB HARC-PRO.	NSF250R	1'00.490
10	29		瀧田 農夫	ウイダー チームアイファクトリー	NSF250R	1'00.498
11	1		徳留 真紀	Tome team PLUSONE	TSR3	1'00.502
12	41		手井 陽一	41planning.IODARacingJapan	IODA	1'00.771
13	25		小室 旭	テルル&EM★KoharaRT	NSF250R	1'00.797
14	32	Y	北見 剣	ウイダー チームアイファクトリー	NSF250R	1'00.878
15	67	Y	鳥羽 海渡	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'00.944
16	21		大西 隼	Projectu7C HARC	NSF250R	1'00.972
17	13	Y	佐野 優人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	1'01.014
18	65		TROY GUENTHER	チームヨシハル&KILレーシング	NSF250R	1'01.032
19	22		安村 武志	犬の乳酸菌.jp/リミティバRT	PRCS3	1'01.051
20	34	Y	関野 海斗	Projectu7C HARC	NSF250R	1'01.063
21	26		高杉 奈緒子	モトバムwithヒボガタマス	NSF250R	1'01.128
22	24		古市 京京	TEAM ASPIRATION	NSF250R	1'01.138
23	75		作本 輝介	Club PARIS RSC	NSF250R	1'01.151
24	33	Y	山元 聖	Projectu7C HARC	NSF250R	1'01.170
25	93		赤澤 隆生	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'01.264
26	18		葛西 雅迪	タニシ&speed heart YERC	NSF250R	1'01.292
27	40	Y	中山 翔太	TEAM TECHNICA	NSF250R	1'01.410
28	37		石崎 司也	TEAM TEC2 & TDA	TEC2-12	1'01.469
29	85		村井 浩志	ZAPPER&YERC	NSF250R	1'01.482
30	36	Y	大塚 和人	18 GARAGE RACING TEAM	NSF250R	1'01.751
31	50		野澤 秀典	ノザレーシングF&モト	NSF250R	1'01.767
32	28		三好 菜摘	オールスターモータースポーツ	NSF250R	1'01.779
33	70		小川 亨	MUSASHI 小川サービス	PP250R	1'01.818
34	31		岡崎 静夏	KoharaRacing	NSF250R	1'01.872
35	38		山本 恭裕	広島カジタRacing&LRC	NSF250R	1'01.978
36	60		川瀬 啓一郎	チーム KOHSAKA & バックヤードガレージ	NSF250R	1'02.061

***** 以上予選通過 *****

37	43		畑中 要	FTR・タイヤナビ・遠藤住宅機	NSF250R	1'02.139
38	35	Y	吉広 光	CLUBNEXT&MOTOBUM	NSF250R	1'02.171
39	45		近藤 真衣	Honda ブルーヘルメットMSC	BH113R	1'03.136
39	Y		佐野 勝人	SRSJwithMORIWAKI	MD250GP3	出走せず
42	Y		大内田 拓	DOGFIISHオーテックスズカ	NSF250R	出走せず
46	Y		岩戸 亮介	Club PARIS RSC	NSF250R	出走せず

予選通過基準タイム (1'04.938 - 110%)

Entry :42 Start :39

"R" マークは、コースレコードを更新しました。従来のレコードタイムは 59.697



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走20台
●決勝スタート/13:35 (25周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	45	長島 哲太	テルル&EM★koharaRT	TSR2	57.380
2	12	中本 郡	レーシングチーム OutRun	YZF-R6	57.528
3	77	井筒 仁康	RS-ITOH&ASIA	ZX-6R	57.603
4	30	DECHA KRAISART	Yamaha Thailand Racing Team	YZF-R6	57.792
5	2	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	GSX-MFD6	57.796
6	51	高橋 英倫	PITCREW&松戸FLASH	MPX-6R	57.813
7	634	浦本 修亮	MuSASHIハルク・プロ	HP6	57.833
8	31	野左根 航汰	ウェビックチームノリックヤマハ	YZW-N6	57.849
9	7	大木 崇行	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	57.859
10	34	岩田 悟	CLUB PLUSONE	HP6	58.325
11	8	関口 太郎	NTS Team TARO PLUSONE	YZF-R6	58.387
12	392	津田 一磨	ミクニ テリアアンドカー	GSX-R600	58.724
13	11	星野 知也	SYNCEDEGE 4413 Racing	CBR600RR HP6	58.761
14	52	HANGDAE CHO	PITCREW&TWO WHEEL KOREA	MXZ-6R	59.368
15	22	佐藤 太紀	TEAM PLUSONE	TSR6	59.466
16	23	鎌田 悟	TOHORacing+おでんせーハート	MD600	59.604
17	16	中村 豊	MOTO BUM HONDA	CBR600RR	59.750
18	13	赤間 清	CLUB HARC-PRO	HP6	59.884
19	79	朝比奈 正	アサヒナレーシング	Z600	1'00.610
20	47	小口 亘	ALLMAN&OWRACING	YZF-OWR6	1'00.639

***** 以上予選通過 *****

予選通過基準タイム (1'03.118 - 110%)

Entry :20 Start :20

INFORMATION



今年も全日本ロードレース完全無料放送!!

2013年シーズンも全日本ロードレース選手権はシリーズ全戦をレース開催8日後に「BS12 TwellIV(トゥエルビ)」で完全無料放送されます。現場ではカバーできなかったシーンや迫力のバトルをあらためてお楽しみください!!

■放映スケジュール

第4戦筑波サーキット 7月8日(月) 20:00~20:54

ますます充実するインターネット動画!!

USTREAM

コース監視カメラの映像と実況アナの音声で予選・決勝をライブ配信! スマフォ対応です。

YouTube

YouTube「MFJ SUPERBIKEオフィシャルチャンネル」では、予選・決勝直後のライダーインタビューを中心に、全日本ロードレースの迫力を動画にて配信!

MFJ Live CHANNEL

TV収録用高画質映像を決勝レース終了後約1時間後に配信!

詳しくはファンサイトで → <http://superbike.jp/>